ベトナム・タイ・香港行政調査報告書

令和７年１１月１０日（月）～１５日（土）

石　川　県　議　会

目　次

日　　程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
参　加　者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
調　査　概　要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
参加議員報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

日　　程

令和７年（2025）年

11 月 10 日（月）
結団式（小松空港ターミナルビル）
11:15　小松空港発（JL186 便）
12:20　羽田空港着
16:35　羽田空港発（VN385 便）
20:05　ノイバイ国際空港着（ベトナム・ハノイ泊）

11 月 11 日（火）
09:00　ベトナム航空訪問
16:00　ノイバイ国際空港発（VN273 便）
18:10　タンソンニャット国際空港着(ベトナム･ホーチミン泊)

11 月 12 日（水）
10:00　ベトジェットエア訪問
17:05　タンソンニャット国際空港発（VN607 便）
18:30　スワンナプーム国際空港着（タイ・バンコク泊）

11 月 13 日（木）
10:00　タイライオンエア訪問
14:00　タイ政府観光庁訪問
15:30　タイ国際空港訪問（タイ・バンコク泊）

11 月 14 日（金）
08:00　スワンナプーム国際空港発（TG600 便）
11:45　香港国際空港着
14:30　香港エクスペレス航空訪問
16:30　EGL ツアーズ訪問（香港泊）

11 月 15 日（土）
14:00　香港国際空港発（UO802 便）
19:00　小松空港着

参　加　者

下　沢　　佳　充（自由民主党石川県議会議員協議会）

一　川　　政　之（未　来　石　川　議　員　会）

小　松　　実（公　　明　　党）

田　中　　美絵子（未　来　石　川　議　員　会）

訪　問　団　名　簿

団　長（小松空港国際化推進石川県議会議員連盟会長）

石川県議会議員		福　村　　章
副団長	石川県議会議員	下　沢　佳　充 （ベトナムのみ）
秘書長	石川県議会議員	室　谷　弘　幸
団　員	石川県議会議員	一　川　政　之
〃	石川県議会議員	長　田　哲　也
〃	石川県議会議員	安　実　隆　直
〃	石川県議会議員	小　松　　実
〃	石川県議会議員	馬　場　弘　勝
〃	石川県議会議員	田　中　美絵子
〃	小松市議会議員	吉　村　範　明
〃	小松市議会議員	中　西　　肇
〃	小松市議会議員	村　中　　洋
〃	加賀市議会議員	稲　垣　清　也
〃	加賀市議会議員	東　野　真　樹
〃	小松商工会議所常務理事	山　口　和　博
随　行	石川県企画振興部交通総合対策監	三　林　直　慶
〃	石川県企画振興部空港企画課課長補佐	釜　野　太　志
〃	石川県企画振興部空港企画課主事	甚　田　洋　克
〃	石川県文化観光スポーツ部国際観光課課長補佐	巽　　陽　一 （タイ・香港のみ）

調　査　概　要

ベトナム航空訪問

（日　時）　令和７年１１月１１日（火）９時００分～１０時００分
（出席者）　ベトナム航空営業マーケティング部　グエン・トゥ・チャン氏　他３名

（内　容）
〇福村団長
・本日は石川県の小松空港国際化推進を行っている訪問団であり、石川県議会議員、市議会議員、経済界、県の執行部合わせて２０名で訪問させていただいた。
・イオンができてから１５年とお聞きした。前回訪問した時は、イオンが出来たばかりの頃であり、この１５年で目覚ましい発展を遂げているように感じた。
・正式にはベトナム航空の訪問は初めて。小松空港は、日本海側の拠点空港。
・国内線は、那覇、福岡、羽田、札幌などの主要都市に就航しており、国際線はソウル、上海、香港、台北に就航している。
・石川県はモノづくりと観光の都市であり、石川県の県都である金沢は京都と並ぶ古き良き日本が残る街並みとなっている。今はカニが旬を迎えているが、海の幸、山の幸が沢山あり、食が非常に沢山ある。また伝統文化も色濃く残っており、九谷焼や輪島塗などがある。
・昨年３月に東京からの新幹線が小松まで開通し、東京、名古屋、大阪、京都と言った都市がすべて３時間以内となっている。
・ベトナムのお客さんは北陸へ６千人近く来ている。また北陸からベトナムへ進出している企業は約１００社ある。中でも世界的な建設機械メーカーの「KOMATSU」の支店があり、その他にも「三谷産業」が４千人、「東亜電機」が８００人のベトナム人を雇用している。
・ベトナム人技能実習生が増えており、北陸だけで１万５千人のベトナム人技能実習生がいる。石川県にもベトナム料理のレストランやベトナムの商品だけを取り扱うお店がある。
・現在、日本は海外観光客４，０００万人の受入れを目指しているが、２０３０年には６，０００万人を目指している。羽田や福岡と言った主要空港だけでは受け入れることは難しく、地方空港からも海外便を多く受けいれるという日本の政策がある。
・日本海側の拠点空港である小松空港へ定期便を飛ばしてほしいというのが、今回の訪問に係るお願いになる。

〇グエン・トゥ・チャン氏
・ベトナム航空を訪問いただき感謝する。佐々木副大臣からも今回の訪問を伝えてくれていた。
・福村会長はベトナムへの訪問が３回目ということで、ベトナムに対して特別な愛着を持っていただいていること感謝する。

・２０２５年に日本からベトナムへの旅客は昨年比で１０％以上上昇しているが、コロナ前である１９年比９割となっている。日本への旅行がブームとなっており、ベトナムから日本への旅客は全体の６番目だが、成長スピードは１番高いと評価している。
・ベトナム航空において日本市場は最も大事なマーケット。東京、大阪、名古屋、福岡への直行便を運航しており、東京にはベトナム航空の支社もある。
・石川県から羽田空港又は福岡空港を経由して、ベトナムへの移動がより便利になると考えている。
・現状ベトナムの空港は混雑しており、日本においても主要空港は観光客増加に伴い混雑することが予想される。ベトナム航空の長期計画では、地方空港との連携も検討している。
・今回初めて小松空港への就航という提案を受けたので、今後路線の拡大に向けて検討させていただきたい。
・ベトナム航空は全面的（経済、観光、航空）に提携する希望を持っている。
・ベトナム航空の乗客に対して、日本のどの地域への関心を持っているのか調査を行っている。ほとんどが東京大阪には来訪経験があり、地方に興味があるという結果になっている。石川県は海も山もあり、観光的な魅力がありそうなので、今後連携協力できそうなことを教えてほしい。
・ベトナム航空は石川県へのチャーター便の運航を提案する可能性もある。
・ベトナム航空はベトナム旅行会社と提携して日本の地方を訪問するという取り組みを行っている。

〇福村団長
・８年程前に大阪でベトナム航空の社長とお会いした。そこで双方向チャーターを実施し定期就航へというお話もあり、チャーターを実施する方向で調整していが、コロナ禍となり実施できなかった。
・ご提案のあったチャーター便については、お互いに準備をして、何本か実施させてもらえればと思う。
・ビジットジャパンにて、２０３０年の観光客６千万人に向けて、羽田空港は近距離便を受け入れられなくなるという話をしていた。羽田と飛行機で１時間、電車で３時間以内の小松空港をアジアのハブ空港にしたいという話もあるので、ベトナム航空には早めに小松空港へ手を付けていただければと思う。
・ご提案いただいた覚書についても互いに締結しておいた方がいいと思うので、締結させてもらえればと思う。
・石川県に視察団として来ていただければすぐに受け入れる。百聞は一見に如かずなので、是非来ていただければと思う。

〇グエン・トゥ・チャン氏
・MOU 締結がなくてもベトナム航空は石川県と協力をさせていただきたい。
・もし MOU を締結できれば、より効果的に活動的に活動ができると思う。チャーター便についてもより適切な時期に行いたいと考えており、チャーター便の前にベトナ

ム航空の機内誌にて石川県の観光地を紹介させてもらっても良いと考えている。

〇福村団長

・チャーター便運航、MOU の締結、ベトナム航空視察団の派遣、場合よってはインフルエンサーの交換なども含めて、今後は事務的にやり取りさせていただければ。





ベトジェットエア訪問

（日　時）　令和７年１１月１２日（水）１０時００分～１１時００分
（出席者）　ベトジェットエア
　　ディン・クアン・ズン　商業部副本部長
　　グエン・チ・ドゥック　国際営業部長
　　レ・ティ・ミー・ハン　国際営業部マネージャー

（内　容）
〇福村団長
・本日は石川県議会、市議会、経済界、石川県の執行部合わせて 20 名で訪問させていただいた。
・私はベトナムが 3 回目。１回目は日本からの直行便がなくバンコク経由、2 回目は 15 年前。この 15 年の間で目覚ましい発展を遂げ、皆様の努力に敬意を表したい。
・昨日は首都ハノイでベトナム航空に訪問後、経済の中心であるホーチミンへ移動した。ホーチミンは経済の中心で勢いを感じており、ベトジェットエアも世界各国に就航しており皆様の努力の結晶だと感じている。
・小松空港は日本列島の真ん中に位置しており、日本海側の拠点空港となっている。日本の主要空港は太平洋側にある。小松空港は那覇、札幌、羽田、福岡、国際線はソウル、台北、香港、上海と定期便を持っている。
・北陸は石川県を中心として、京都と同じように日本の古き良き街並みがあり、日本食や日本文化が発展しており、すごい勢いでインバウンドが増えている。
・昨年 3 月に小松まで新幹線が直通になり、東京から 2 時間半で行くことが可能となった。また日本列島の真ん中なので、名古屋、大阪、京都にも３時間以内で行けるようになり、北陸を観光いただいて大都市に行く、というような周遊観光が可能となった。
・コロナで一時中断していたが、ベトナム人観光客は 6 千人と増えている。技能実習生も 1 万 5 千人おり、街にはベトナム人専用のレストランもできている。
・石川県は観光とモノづくりが盛んな地域のため、産業が非常に盛んであり、北陸から 100 社近くの会社がベトナムへ来ている。石川県を代表する「三谷産業」は４千人、「東亜電機」は 800 人の雇用を現地で生み出している。
・日本は観光客を多く受け入れており、今年は 4 千万人、2030 年には 6 千万人を目指している。6 千万人になると、羽田や大阪、名古屋と言った主要空港では近距離路線を受け入れられなくなる。そのため今のうちから地方へ観光客の分散を行うという政策を行っている。
・羽田はアジアの近場の近距離便を受け入れなくなるため、羽田空港は小松空港と姉妹空港として、アジアのハブ空港にするという構想もある。

・香港便も台湾便も LCC となっており、近場は LCC の時代だと思っている。
・小松空港と定期便を結んでいただければ失敗はないので、是非決断をお願いしたい。

〇ディン・クアン・ズン　商業部副本部長
・福村会長を含めた皆様、ベトジェットエアへ訪問いただき感謝する。ベトジェットエアは１番最初であり１番大きな LCC。
・ベトジェットによって、ベトナムと海外を結ぶことが可能となった。
・日本以外にも台北やインドなどの国際線を多く運航している。
・ベトナムと日本の友好関係は発展していて、ベトナム人と日本人は相思相愛。ベトジェットエアは東京や関西などの就航に支援をいただいた。今後、日本の地方自治体と連携し、両国のお客さんに向けてよりよいサービスを提供したい。
・ベトジェットエアはベトナム航空市場のシェア 50%を占めており、一番シェアを持っている航空会社となった。今後、国際線の拡大を行うつもりであり、日本での路線も増やしたいと考えている。
・最近ベトナムから観光や仕事を目的として、日本へ行っている人が多い。ベトナムは地理的に良い場所にあるので、タイやラオスを目的地とした人の乗継利用も想定される。日本への入国はビザが他の国と比べて厳しいので、日本政府がこの課題を解決してくれれば、もっと日本へ行くベトナム人が増えるはず。
・ベトジェットエアは協力支援の提案は大歓迎なので、なんでも提案してほしい。

〇グエン・チ・ドゥック　国際営業部長
・ハノイ、ホーチミンから東京、大阪、名古屋、福岡、広島へ運航している。新規路線を開拓しても運航頻度と旅客数は減ることはない。
・新しい目的地を運航するために、ビジネス需要などの研究調査をしっかり行う。
・福村会長からおっしゃっていただいたことを実現するために、窓口を教えていただきたい。データを送付いただければしっかり検討したい。

〇福村団長
・小松空港は地方空港とは言え、200 万人の利用者があり、日本の地方空港では珍しいが欧州との貨物定期便を持っている。
・もっと早くベトナムへ来たいと思っていたが、ベトナムは主要空港しか就航しておらず、訪問することが出来なかった。最近地方空港へ就航されたということで、小松にも可能性があるのではないか、ということで今回訪問した。
・見ていただくことが 1 番であり、是非視察団の派遣をしていただきたい。

石川県をまず見ていただき、できるだけ早く派遣いただきたい。大歓迎する。

〇グエン・チ・ドゥック　国際営業部長
・ベトジェットエアは海外でビジネスを展開するために、調査を行うので早めに窓口の方と情報交換を行いたい。

〇福村団長
・窓口担当者の連絡先を交換していただき、連携していければと思う。

〇グエン・チ・ドゥック　国際営業部長
・最初のステップとしては、石川県との情報交換を行いたい。
・ベトジェットにはベトジェットカーゴという子会社もあるので、貨物の部分も連携できる部分があるのではないか。本日、紹介いただいた情報をカーゴにも共有して小松空港と連携できそうな部分を探りたい。





タイライオンエア訪問

（日　時）　令和７年１１月１３日（木）１０時００分～１１時００分
（出席者）　タイライオンエア
　　ヌンタポン　　営業部長
　　プレウランプアイ　広報・マーケティング　マネジャー
　　アリーヤ　　ルート・ネットワークマネジャー

（内　容）
〇福村団長
・シリキット王太后陛下がご逝去されたこと、お悔み申し上げる。
・本日は大挙して、石川県小松空港とタイの定期便をお願いに来た。ヌンタポン営業部長をはじめ、他の皆様に対応いただき感謝する。今回の訪問団は石川県議会議員を始め、経済界や市町議員、産業界の代表、石川県の執行部の合計２０名で来た。
・小松空港は日本列島のど真ん中に位置し、タイに近い日本海側の拠点空港であり、国内線は羽田、札幌、福岡、那覇などの主要空港に就航している。国際定期便は台湾、上海、香港、ソウルに就航している。
・タイは 20 年通い詰めているが恋が実っていない。タイと日本は親しい友好関係があり、石川県にもタイ友好協会というものがある。
・昨年、タイからの北陸へのインバウンドは 3 万 5 千人ほどいた。
・石川県は日本で有数の観光地であると共にモノづくりの地である。海山の珍味があり、伝統文化という点においては京都と並んで古き良き日本が残っていると言われている。石川県は輪島塗や九谷焼、金箔など伝統工芸が沢山あり、また仏教が盛んで良いお寺もたくさんある。
・産業も盛んで、北陸からタイへ 103 社進出している。特に世界の建設メーカーである KOMATSU は石川県小松市で生まれたもの。またタイの街に沢山店舗を構える 8 番ラーメンも石川県で生まれたものであり、ビジネスの往来も沢山ある。
・今年の日本のインバウンドは 4 千万人を超えると言われており、2030 年にはインバウンドは 6 千万人を目指しており、羽田や福岡、関空という主要空港だけで受け入れることは難しく、アジアからの近距離便は地方空港で受け入れるという話もある。
・羽田空港の拡張は難しく、アジアのハブ空港機能は小松で受け入れてほしいという話もある。羽田から 1 時間であり、昨年新幹線も開通したことで、鉄道にて東京、大阪、名古屋はすべて 3 時間以内で行くことができる。

〇ヌンタポン営業部長
・すべて 3 時間以内という発言があったが、どこを起点として東京までは、どのくらい時間がかかるのか。

〇福村団長
・金沢を起点として東京までは約2時間半、飛行機は1時間。
・小松駅から京都までは2時間、大阪、名古屋も3時間以内。
・近距離便の主力はLCCになると考えている。小松空港においても、香港はLCC、台北も9便のうち2便はLCCが運航している。

〇ヌンタポン営業部長
・本日初めてお越しいただき感謝する。実は前々から小松空港の話を言っていたが、今回初めてお会いすることができた。皆様とお会いできることは大変嬉しい。
・今回の訪問に当たって、佐々木副大臣からレターをもらい、打合せの場を設定するに至った。
・コロナ以前は成田、大阪、福岡、名古屋という主要都市などへ乗り入れを行っていた。
・コロナ後については、機材機能から日本への新規就航を検討していなかったが、日本就航への検討を行い、昨年から台北経由で成田への定期便就航を実現した。
・続けて今年1月に高雄-沖縄へ就航、台北-名古屋へ就航している。12月に高雄-千歳、台北-大阪の就航を予定している。
・タイから日本へ向かう需要が多くあったため、今年は新規就航便が多くあった。今年はこれ以上に就航便を増やす予定はないが、来年は検討の余地がある。
・もう一度小松空港への国際線を教えていただけないか。

〇福村団長
・台北は9便、上海は4便となっており、コロナ前は6便だったので、近いうちに6便へ戻る。ソウル3便、香港は3便。

〇ヌンタポン営業部長
・小松空港の国際線を利用した観光客は、小松市内または石川県内にて、どれほどの時間を過ごすのか。

〇福村団長
・石川県は観光の宝庫であり、大きく分けて能登、金沢、加賀のエリアがある。今は災害の影響で営業を行っていないが、能登は日本一の温泉ホテルがある。金沢エリアには、古い良き日本を伝える街並みがあり、21世紀美術館、日本三大庭園と呼ばれる兼六園があり、非常に観光名所が多い。
　加賀エリアは温泉の宝庫であり、日本三名山の白山、お寺は那谷寺などがある。石川県へ2泊していただき、その後に北陸、東京へ行っていただければと思う。
・金沢は日本人の訪れたい観光地ランキングにて、常にベスト10には入って

いる。

〇ヌンタポン営業部長
・石川県を訪問する観光客はツアーが多いのか、個人旅行客が多いのか。

〇福村団長
・以前はツアーが多かったが、個人旅行が増えている。

〇ヌンタポン営業部長
・石川県への来訪は、冬、夏どちらが人気なのか。

〇福村団長
・冬は雪が見たい人、春は桜が満開の時に来る人、秋には紅葉が見たい人など、1年を通じてある。
・主要都市はすべて太平洋側にある。これからは日本海側に拠点を作るということが大切。
・見ることが大事なので、小松空港石川県へ来てください。一度見ていただいたら、次の定期便は小松となるはずなので、是非来てほしい。





タイ政府観光庁訪問

（日　時）　令和７年１１月１３日（木）１４時００分～１４時４５分
（出席者）　タイ政府観光庁
　　クリダ サリソムワン　　東アジア地域副局長
　　ソーロット・タンカアーリー　日本市場担当

（内　容）
〇クリダ　サリソムワン　東アジア地域副局長
・福村先生を始め石川県議会の皆様、石川県庁の皆様、石川県の空港関係業界の方、メディアの方、本日はお越しくださり感謝する。
・石川県ご出身の佐々木国土交通副大臣よりメッセージいただいており、皆様がお越しになるため観光交流のお話を進めてくださいということを、お伝えいただいた。
・タイ国政府観光庁では、タイへの観光客誘致ということでアウトバウンドを促進している。タイの料理やお祭りなどのソフトの部分をお伝えしており、石川県の素晴らしいコンテンツを活用し、観光交流を活性化し、石川県の定期直行便の活性化につながるお仕事ができればと思う。

〇福村団長
・1 年ぶりに訪問させていただき感謝する。
・コロナを除きここ数十年、ほぼ毎年タイを訪問させていただいている。
・本日の訪問団はご案内のとおり、小松空港国際化を行うため、石川県議会、周辺市町議員、経済界と一緒に約 20 名で大挙した。
・小松空港は日本列島のど真ん中に位置し、日本海側の拠点空港であり、国内線は那覇、福岡、札幌、羽田、国際線は台北、香港、ソウル、上海との定期便が就航している。
・東アジアの中心であるタイバンコクから、飛ばしたいというのが長年の夢である。
・石川県は日本で有数の観光地であると共に、モノづくりの地である。海山の珍味があり、伝統文化という点においては京都と並んで古き良き日本が残っていると言われている。石川県は輪島塗や九谷焼、金箔など伝統工芸が沢山あり、また仏教が盛んで良いお寺もたくさんある。
・日本とタイの関係は良好であるが、石川県とタイの関係も非常に親密であり、石川県にはタイ友好協会というものがある。
・タイから北陸を訪れる観光客は、昨年 3 万 5 千人となっている。
・産業も盛んで、北陸からタイへ 103 社進出している。特に世界の建設メーカーである「KOMATSU」は石川県小松市で生まれたもの。またタイの街に沢山店舗を構える「8 番ラーメン」も石川県で生まれたものであり、多くの企業がお世話になっている。
・1 日も早くバンコクー小松便を就航させたいと考えており、期は熟したと

考えている。
・前副総裁には石川県へ 30 名程度の視察団を派遣いただき、道の駅などを視察しながら友好を深めることが出来た。前回の派遣から少し時間も経ったので、タイ政府観光庁としても視察団を派遣いただき、定期便を飛ばすに値する場所なのかを確認いただければと思う。

〇クリダ　サリソムワン　東アジア地域副局長
・まず初めに、小松空港との定期直行便就航に向けて共に働きかけを行うという方針については、幹部は一新されたが、引き続き行うということを確認したい。
・具体的にどこの空港に就航したいのか。

〇福村団長
・バンコクの空港。

〇クリダ　サリソムワン　東アジア地域副局長
・定期直行便に向けて、チャーター便の運航も考えているのか。

〇福村団長
・コロナ前は連続双方向チャーターを行っていた。昨年なども要望していたがチャーターへの機材がないとのことだった。
・機材が整っているということであれば、今年もチャーターを実施して定期便に繋げたいと考えている。来年あたりには、定期便就航を考えている。

〇クリダ　サリソムワン　東アジア地域副局長
・定期直行便を運航するにあたり、機材を埋める需要が必要。そのために、タイ国政府観光庁として調査を行っており、日本からタイへの観光客年齢が上がっているという状況がある。
・修学旅行を含む学生旅行や研修旅行などで、若年層にタイを訪れてもらうことで、フライトの実現の後押しになるのではないかと考えている。
・北陸 3 県から 103 社がタイに拠点を構えているとのことだが、ビジネスツーリズムやインセンティブ旅行などで利用いただくことで、需要を確保できるのではないかと考えている。

〇福村団長
・若い人向けに 10 月にインフルエンサーの派遣を行い、これから若い方向けにイベント行うところである。
・石川県金沢市とナコーンシータンマラート県は、20 年ほど前に友好協定を結んでいる。

〇クリダ　サリソムワン　東アジア地域副局長

・レジャー客以外に、教育旅行やビジネスの需要があるお話をしたが、それ以外にもスポーツの需要がある。石川県は冬で雪が降る時には、タイは乾季になるので、これも定期便就航に向けた需要喚起になると思う。

・本日皆様にお会いできて良かった。定期直行便の就航に向けて、旅客以外にも貨物があれば航空機も飛びやすいというのが航空会社の意見かと思う。石川県の物産をタイでプロモーションを行うのであれば、お手伝いさせていただきたい。





タイ国際航空訪問

（日　時）　令和７年１１月１３日（木）１５時３０分～１６時３０分
（出席者）　タイ国際航空　　トリティ 日本北米地区統括ＧＭ　他４名

（内　容）

〇福村団長

・県議会議員の他、小松市議会議員、加賀市議会議員、小松商工会議所など総勢 20 名で訪問させてもらう。
・小松空港は日本列島のど真ん中に位置し、日本海側の拠点空港である。国内線は羽田、那覇、福岡、札幌便が就航しており、国際線は台北、ソウル、上海、香港が就航している。
・石川県は京都と並ぶ日本の古き良き文化を持っている。珍味や世界遺産になるような観光場所も沢山ある。北陸石川県は日本を代表する観光とモノづくりの街。
・インバウンドのお客さんも多く訪れており、昨年タイからは 3 万 5 千人を超える来県者数となった。
・新幹線も全線開業し東京～金沢も 2 時間半。名古屋、京都、大阪も至近距離で、北陸を観光して大都市を観光する周遊観光が可能となった。
・北陸はモノづくりが大変盛んな地域であり、北陸からタイへの進出企業は 103 社となっている。特に世界的に有名な機械メーカー「KOMATSU」、タイに 100 店舗以上ある「8 番らーめん」は、石川県で生まれたもの。
・バンコクー小松の直行便の就航は念願であり、いち早く実現したいと考えている。タイから日本への就航はすべて太平洋側に偏っており、日本海側の拠点空港である小松へ早く就航してほしいというお願いをしている。
・昨年お会いした際には、機材が整えば就航させても良いのではないか、また早速検討に入りたいという発言があったので期待している。場合によっては高雄経由で運航いただいても良いと発言いただき、今回非常に期待している。
・また昨年お伺いした時に、お互いの地域の PR をしっかりやるため、インフルエンサーの交換を行うという話があった。アウトバウンドについては今年 10 月に実施し、インバウンドについては来年 1 月～3 月に派遣予定。

〇トリティ日本北米地区統括 GM

・まずタイ国際航空を訪問いただき感謝する。福村先生、室谷先生をはじめ、皆さんに訪問いただいたこと感謝する。
・バンコク-高雄経由-小松便については、機材納入の遅れが発生している。納入完了後、タイ国際航空の幹部で会議の上、小松空港へ就航するかどうかを決めることになる。
・それまでの取組としては、引き続き双方向のインフルエンサー派遣を行いたい。今後は事務レベルで調整させていただきたい。

・本日タイ国際航空までお越しいただき感謝する。定期便が実現するまでに石川県との関係強化につなげたい。

〇福村団長
・香港や中国は定期便が就航したが、タイが実現していないのが残念。
・タイ国際航空との関係は長い。できればタイ国際航空に就航いただきたいと考えている。コロナ前は双方向チャーターも何回も実施し大成功を収めており、インフルエンサーも今年度行うなど、様々なイベントを実施した。
・機材はいつ整うのか、また機材が整った際の小松空港への就航の決断をお願いしたい。

〇トリティ日本北米地区統括 GM
・タイを重要視していただき、10 年間ご訪問いただき感謝する。コロナの影響やメーカーの納入遅延もあり計画通り進んでいない。機材の納入が終わった後にルートを決めていきたい。
・機材不足によりチャーターも約束できない。そのため、インフルエンサーを実施して認知度を上げて、航空便のニーズを高めて、タイ国際航空の幹部も石川県の認知してもらい、石川県の優先度を高めてもらう必要がある。

〇福村団長
・来年の 7 月には機材が整うとの話もあったが、ボーイングのストライキなどでまだ整っていないとこと。インフルエンサーの派遣などはいくらでもやるが、新規機材が整った際には小松空港は有力な就航先候補地なのか、正直な所をお聞かせ願いたい。

〇トリティ日本北米地区統括 GM
・機材の納品状況はかなり遅れが発生しており、運休となった便を復活させることが、最優先となっている。
・新たな就航先として、小松空港は上位に上がっている。

〇福村団長
・機材は 1 年ほど遅れるということだろうと思うが、機材が整った際には小松空港を最優先で検討いただきたい。もう 20 年ほど通っており、できればタイはタイ国際航空に運航いただきたいと考えている。

〇トリティ日本北米地区統括 GM
・最後となるが、タイ国際航空を重要視いただき感謝する。小松空港への就航については状況が整い次第、内部での検討を行っていきたいと考えている。またソーシャルメディアを交えて沢山のＰＲ事業を実施したいと考えている。
・石川県の観光ツールなどあれば機内誌で紹介できるので、連絡いただけれ

ばと考えている。

〇福村団長

・長年の恋が破談にならないように、我々も熱意をもって対応したい。機材が整い次第、小松路線を最上位に検討いただけるように重ねてお願いする。





香港エクスプレス訪問

（日　時）　令和７年１１月１８日（火）１４時３０分～１５時３０分
（出席者）　香港エクスプレス　クラレンス事業開発取締役

（内　容）

〇福村団長

・丁度一年ぶりの訪問。
・石川県議会や加賀市、小松市、小松商工会議所のメンバーも一緒に訪問団としてきたが、香港エクスプレスは県議会議員メンバーのみで訪問させていただいた。
・香港が大好きでコロナ禍を除き毎年来ている。
・昨年皆様へお会いしてコロナで休止していた定期便について、なんとかひとつ早く再開をしていただきたいとお願いをさせていただき、今年の 4 月から再開していただき喜んでいた。
・ところが香港を中心に、日本で大地震が起きて日本が崩壊するような漫画が出回って、一番いい時期に搭乗率が落ち込んでしまい、冬ダイヤは休止すると聞いた。本当にがっかりした。
・また最近は搭乗率が上がってきており、我々も全力を挙げてアウトバウンド、インバウンドの PR を行って搭乗率をもっと上げるように努力したいと思っている。本日のお願いとしては、4 月からの夏ダイヤからの再開をお願いしたい。

〇クラレンス　事業開発取締役

・香港へようこそ。狭い所なので大人数は対応できない中、石川県議会の皆様がここにいらっしゃっていただいたことに感謝する。
・運休や減便、増便もあったが、大地震の噂やクマ問題などもあり搭乗率が悪いままとなっている。
・小松空港には 1 月～3 月は休止とすることになったが、これは良かったと感じている。今はクマの問題もあり急に搭乗率が上向くことはなく、来年もう一度 PR を行う方が、効果は良くなると考えており、路線計画では休止は 3 カ月のみ。冬の時期はセールスを行いにくい時期なので、夏のセールスに向けて行う方が効果的。
・来年の計画については、大変な出来事がなければ 3 月末に路線が再開する計画となっている。
・現在の小松のフライトの時間について、香港の出発時間が 14 時 30 分、小松の到着時間は 19 時、小松の出発時間が 19 時 45 分となっている。
・日本からのお客さんが少なすぎるが、このフライト時間の必然の結果かもしれない。

・利便性の高いダイヤ実現に向けて、小松空港のグランドハンドリングの問題がある。この問題がクリアできなければ、従来通りの時刻となるだろう。
・調整することが出来れば、この路線の成績は大幅に改善すると考えている。これが最初のお願いとなる。

〇三林対策監
・就航いただいた時も調整させていただいたが、ニーズを踏まえて調整したい。

〇クラレンス　事業開発取締役
・二つ目が宣伝となる。石川県の皆さんの支援をお願いしたい。

〇福村団長
・条件はあるが夏ダイヤから再開いただくということに大変感謝する。
・時間帯の問題は私自身も感じており、共用空港ではあるが事務方からも努力を行い、防衛省と折衝を行い、近い時間になるようにしたい。

〇クラレンス　事業開発取締役
・佐々木副大臣の頼みもあり、小松―香港便について全面的にサポートしたい。

〇福村団長
・石川県におけるクマ問題について、観光客への影響はない。
・LCC が安いということが知られていない。若い人はそんなに安いのであれば香港へ行きたいという人が多くいる。場合によってはインフルエンサーの交換なども行い、PR を行いたいと考えている。
・旅行関係者との意見交換の中で、旅行の利便性向上に向けて 4 便にしてくれと言う話があった。我々も本当は香港経由でベトナムへ行きたいと考えていたが、曜日が合わず羽田経由で行ったところ。

〇クラレンス　事業開発取締役
・ダイヤ時刻を改善することで、もうちょっと便利なサービスを獲得できるように変更したい。
・実際は 3 便運航がギリギリ。数字を上げるために PR を行うなど努力をするが、数字が上がらなければカットせざるを得なくなる。
・ただ小松は北陸の重要な空港なので、そのようなことにならないように努力する。

〇福村団長

・香港というのは日本人が行ってみたい国となっている。冬場でもカジノに行きたい人も沢山おり、LCC は安いので来ると思う。これからは周知をしっかり行いたい。

・時間があるときに是非石川県に来てほしい。





EGL ツアーズ訪問

（日　時）　令和７年１１月１８日（火）１６時３０分～１７時３０分
（出席者）　EGL ツアーズ
　　クリスティーナ・ユエン　最高経営責任者 CEO
　　ジミー　リョウ　社長室アシスタント
　　末廣　啓一　統括部長
　　末廣　景子　日本スーパーバイザー
　　濱木　由美　シニアマネージャー

（内　容）
〇福村団長
・袁さんには、日本ひいては石川県に多くの送客をいただき、大変お世話になった。また石川県には昨年 2 月にわざわざお越しいただき、知事と私が立ち合い能登の大災害の義援金をいただいた。
・今年の 2 月にも講演でお越しいただき、おもてなしをさせていただいた。その際に袁さんがいつもの食欲が無かったのでどこか悪いのかと気にかけていたが、まさかこんなことになるとは夢にも思わなかった。
・これ以上申し上げても袁さんが帰って来られるわけではないので、これからはユエンさんの舵取りでがんばってほしい。我々も色々なアドバイスをもらえればと思っている。
・コロナを除いてここ何十年ずっと来ている。
・日本で大災害が起こるという風評被害があり、急に搭乗率が急落して 1 月～3 月は休止するという通達があった。
・香港エクスプレスと石川県で PR をしたい。今は時間帯が少し悪いので調整を行い万全の体制で 4 月から行っていきたいという話をした。
・EGL の皆さんにも送客いただけるように、よろしくお願いしたい。

〇クリスティーナ・ユエン　最高経営責任者 CEO
・まずは石川県からお越しいただき感謝する。
・福村さんをはじめ、袁さん EGL ツアーズにご支援いただき、またありがたいお言葉いただき、心より感謝する。皆さんのおかげで、袁さんの人生が充実したものになり感謝する。
・やはり地方の皆様方の情熱やおもてなしの文化をきっかけとして、香港の方々にも同じように、おもてなしの心を感じてもらえるように EGL を創業した。
・袁さんは日本の地方へチャーターの運航も行った。
・袁さんのもともとの仕事は観光業であるが、災害などあればご自身で助けに行こうという心を持っていた。

・中国では創業することも難しいが、続けていくことはさらに難しいと言われている。
・クリスティーナさんは、袁さんの想いを守りつつ発展させていきたいと考えている。特に４つの価値を守りたい。スタッフは最前線でお客さんと触れ合う業務であり、観光業においてとても重要だから、１つはスタッフの価値。２つ目は皆様のようなパートナーの価値。パートナーシップは見た目の利益だけではなく、お互いの文化を尊重しつつ前へ進む必要があるからだ。最後に会社の価値。
・袁さんが築かれたパートナーシップを維持しつつ、発展したいと考えている。
・今年の香港マーケットの状況を説明する。コロナ以外で EGL39 年の歴史の中で、今年１番大変な年だった。
・本日せっかくなので良いニュースも発表したいと考えている。ＯＴＡデータ分析を見ると、香港の方々の人気旅行先調査にて、石川県金沢市は日本の地方都市の中で１番人気のスポットとなった。１位は東京、２位大阪、３位は福岡、４位に金沢となっている。
・小松便については、香港エクスプレスと相談して、4 月の立山黒部アルペンルート開山の前に直行便を再開してほしいという話をしていた。クリスティーナは金沢を訪問したことがあり、海鮮なども美味であり、和風の雰囲気もあり、個人的に大好きな場所。
・京都はオーバーツーリズムの問題もあるので、金沢は海外の方へもっとＰＲすれば第二の京都とすることができるはず。金沢の金箔アイスクリームもインスタ映えとしては良いコンテンツであり、和風の雰囲気もＰＲしやすい。また立山黒部アルペンルートの開山はとてもいいチャンスだと考えている。
・立山黒部アルペンルートを「日本のスイス」としてＳＮＳで発信しても良いのではないかと考えている。
・香港では日本は熊が多いという報道がある。熊問題が解決されればトレッキングツアーも検討できる。今後も前に負けないように宣伝したいと考えている。

〇福村団長
・袁さんが亡くなられてから進化していると感じている。仕事内容はスタッフがいれば何とかなるが、魂も引き継がれていると感じており、間違いなく袁さんの血が流れていると確信した。これからＥＧＬを大きく発展させてくれるという期待が持てた。
・金沢しか知らないという人が多いが、石川県にはまだまだ沢山ある。古き良き日本が残っているのは京都と金沢だけ。その他、山や川、輪島塗、九谷焼などの伝統文化など宝の宝庫となっている。

・３日間の時間をください、石川県をしっかり案内する。東京や大阪、京都の他にも必ず日本海側の拠点が必要となる。石川県には日本一の温泉があるので３日来てほしい。
・香港エクスプレスでも発言があったが、北陸はクマによる観光被害はないのでご安心いただきたい。

〇クリスティーナ・ユエン　最高経営責任者 CEO
・袁さんの回ってきた旅行先は行きたいと思っているが、今は色々なことがありバタバタしているので今年中は難しい。



石川県議会ベトナム・タイ・香港行政調査報告書

石川県議会議員　下沢佳充

令和 7 年 11 月 10 日(月)から 15 日(土)に行われたベトナム・タイ・香港行政調査について報告いたします。(ベトナムのみ参加)

《11/11(火) ベトナム航空訪問》

当連盟は初訪問。小松空港は日本海側の中心であることや、地方空港ではあるが年間 200 万人の搭乗客があり、東京をはじめ日本の主要都市の航路を持つ。加えて日本海側の中心都市金沢と近く、新幹線の利用も容易である(首都圏・中京圏・京阪神圏と 3 時間以内) こと。さらに、金沢には大都市にはない歴史・文化が多く存在し、食の都として山海の珍味に富み、古き良き日本と現代日本が融合した世界で一度は訪れるべき街として高く評価されている点。また、産業面でもベトナムへの企業の進出や、関係企業が増加していることなど多方面に渡りアピール。

対して、ベトナム航空のグエン・トゥ・チャン氏は日本市場に高い関心を示しており、愛知、大阪、鹿児島、島根と観光・経済両面における連携を例示し、石川県にも締結をすすめる。当連盟よりのチャーター便検討の要請に対しは、前向きの姿勢を示唆する。

今度とも連絡を密にし、相互にプロモーションを行うことで合意を得た。

《11/12(水)ベトジュットエア訪問》

ベトナム航空と同様、当連盟は初訪問ながら大変丁寧な対応であった。日本に就航する航空各社の傾向として、中心的空港（羽田・成田・関空・セントレア・福岡等）は飽和状態であり、東南アジアの就航便は LCC が中心との説明をしたところ、大いに関心有りとの感触を得る。全般的な心象としてベトナム航空よりも積極性を感じるが、石川県が LCC の小松就航に際し、一体何をどの程度行ってくれるかを強く求める感が有る。いずれにしても初訪問の割には食いつきが良く好感触。

《ベトナム便就航の問題点》

・日越関係は良好ではあるが、まだまだ当県の伝統や文化、歴史等観光面での有利性、交通的利便、産業的関係等の認知不足が否めず。SNS、インフルエンサー等を活用しプロモーションを強化する必要がある。
・他空港から勧誘・打診があると仮定した場合、当県として独自に、どの様な支援を行なえるのか。(空港使用料・地上勤務者確保・ベトナム航空ベトジェット航空の視察団の招待等)
・費用対効果の検討。

大まかに、この三点が肝要であると思われる。

石川県議会ベトナム・タイ・香港行政調査報告書

石川県議会議員　一川　政之

① ベトナム航空
訪問日：令和 7 年 11 月 11 日（火）
対応者：ベトナム航空営業マーケティング部
　　グエン・トゥ・チャン氏他 3 名

2025 年、日本からベトナムへの旅客数は、前年比で 10%以上上昇し、コロナ禍前の 2019 年と比較し、9 割まで戻っている。一方、ベトナムから日本への旅客数は、全体の 6 番目で、成長スピードでは 1 番高いとのことから、両国にとって重要な渡航先ということが確認できた。また、ベトナム航空において、日本市場は最も大事なマーケットと捉えており、近く日本市場を開拓する計画を持っているとのこと。ただ、多くの渡航者は、日本の地方にも興味があるものの、石川県を含め認知度が低い。そのような中、ベトナム空港は、島根県・鹿児島県・愛知県と経済、観光、航空など包括的に連携するための覚書を締結している。まずは、チャーター便誘致に向けた取り組みを進め、石川県においても早急に覚書を締結し、連携を強化する必要性を感じた。ベトナム航空へは議連として初めての訪問だったが、内容が濃く収穫の多い訪問となった。

② ベトジェットエア
訪問日：令和 7 年 11 月 12 日（水）
対応者：商業部本部長　ディン・クアン・ズン氏他 2 名

2011 年に創業したベトジェットエアはベトナムで最初の LCC で、現在航空機を 100 機保有する一番大きな LCC となり、ベトナム航空市場の 50%のシェアを占めている。日本、とりわけ地方への路線拡大に意欲はあるとのこと。
ただ、ビザの条件が他国と比べ厳しいことが課題で、この課題が解消されれば、訪日客が増えるとの見解。必要であれば、全国知事会などを通し、国に対し働きかけることも検討すべき。先方からは、最初のステップとして、互いの窓口による情報交換を行い、石川県・小松空港にポテンシャルがあると見込めれば調査団を派遣したいとの前向きな姿勢を感じた。
また、今後の就航に向け、支援を求める発言もあったことから、本県として、どのような支援ができるのか、また効果的なのかは、検討を進めなければならない。
ベトジェットエアの子会社にベトジェットエアカーゴもあることから、貨物に関しても興味を示した。

③ タイライオンエア
訪問日：令和 7 年 11 月 13 日（木）
対応者：営業部長　ヌンタポン他 2 名

機材の保有状況は、コロナ禍では 20 機以下だったが、現在は 30 機以上。24 年から台北経由で成田への定期便を就航し、25 年 1 月には、高雄→沖縄、台北→名古屋へ就航し、12 月から高雄→千歳、台北→大阪を予定している。
タイから日本へ向かう需要が多くあるため、来年も就航を増やす検討の余地はあるとのこと。また、北陸新幹線の県内全線開業により首都圏や関西までの移動時間が短縮されたことに興味を示したことから、新幹線と連携した観光プランを造成し、提案することも効果がある。ただ、まだまだ本県の知名度の低さを感じることから、知名度を上げる取り組みの必要性を感じた。

④ タイ政府観光庁
訪問日：令和 7 年 11 月 13 日（木）
対応者：東アジア地域副局長　クリダ・サリソムワン氏　他 1 名

冒頭、副局長より本県の素晴らしいコンテンツを活用し、石川県への定期直行便につながる仕事がしたいとの心強い発言があった。定期直行便を運航するにあたり、双方で機材を埋める需要が必要であることから、タイ政府観光庁として調査を行っており、その結果、日本からタイへの観光客年齢が上がっている状況があるとのこと。今後は、修学旅行を含む学生旅行や研修旅行などで若年層にタイを訪れてもらうことで、フライトの実現につながるのではないかという助言があった。本県においては、県立高等学校に対し、タイが修学旅行先として選択肢になるのか意向調査をする必要がある。また、スポーツ愛好家は消費額が大きいことからスポーツ交流も需要の拡大策のひとつ。併せて旅客機の貨物部分を活用することも有効とのこと。
今回訪問した、タイ国際航空、タイライオンエア以外にも、タイベトジェットエア、タイエアアジアという航空会社があり、近年動きが活発ということ。今後はこの 2 社も交渉先に加える必要がある。

⑤ タイ国際航空
訪問日：令和 7 年 11 月 13 日（木）
対応者：日本北米地区統括 GM　トリティ他 4 名

コロナの影響などで、機材の納品状況はかなり遅れが発生していて、機材不足が理由で名古屋便が欠航となっている。まずは欠航となった便を復活させることが最優先で、チャーター便の運航も同じ理由で難しい状況とのこと。ただ、新規就航先としては、小松空港は上位に位置しているとのこと。いまできることとして、引き続き双方向のインフルエンサーの派遣など知名度を高める取り組み進めていくことを確認した。

対談の最後に GM より、日本からの日本人の搭乗率の低さを指摘されたことから、本県においても、タイの魅力を発信し、アウトバウンドにこれまで以上に取り組む必要性を感じた。

⑥ 香港エクスプレス
訪問日：令和 7 年 11 月 14 日（金）
対応者：事業開発取締役　クラレンス

対応者のクラレンス事業開発取締役は日本への赴任経験や、2 年ほど東京の大学で学ばれたとのことで親日ぶりが感じられた。説明によると現状は厳しく、キャセイ本社は好調ではあったが、傘下で唯一成績が悪かったのが香港エクスプレス。前期は 104 億程度の赤字となったとのこと。そういったこともあり、全体的にネットワークやセールスについて検証を行い、小松便の冬ダイヤは運休となった。搭乗率の低さは PR 不足に加え、フライト時間、地震のうわさやクマ被害も影響したとのことだが、1 月から PR を再開し、夏ダイヤから再開するとのこと。PR については支援を求める発言もあった。また、不便だったこれまでのフライト時間を変更し、香港発が午前 9 時ごろ、小松着が午後 2 時ごろ、小松発を午後 3 時ごろ、香港着が午後 6 時ごろにすることで利便性を高めるとのこと。ただ、フライト時間の変更で低すぎる小松からの搭乗率が改善されなければ就航を中止する可能性もあるとの厳しい意見もあった。本県としては、インバンド対策以上に、ＰＲを含むアウトバンド対策を強力に進めていく必要性を感じた。

⑦ EGL ツアーズ
訪問日：令和 7 年 11 月 14 日（金）
対応者：最高経営責任者 CEO　クリスティーナ・ユエン　最高経営責任者 CEO 他 4 名

CEO からは、先代の袁氏の遺志を引き継ぎ、袁氏の思いを守りつつ発展させていくとのことで、日本への強い思いが感じられた。
災害の予言の影響で、5 月から 9 月までは、前年比 5 か月連続でマイナスとなり厳しい状況が続いたが、10 月から 12 月は、前年比で 100%と回復した。OTA データによると、金沢市は地方都市の中で 1 番の人気スポットという調査結果もあり、10 月から 12 月に EGL が取得している座席は満席となったとのこと。夏休み期間の 7・8 月はイベントの多い東京や大阪といった大都市への旅行を希望する客が増える懸念があるとのことで、ぜひファミリー向けのイベントやスポットを紹介し、本県に行く理由を増やしてほしいとのこと。グルメや自然などにも関心が高いとのことから、本県の強み、魅力発信を更に強化していく必要性を感じた。

（おわりに）

今回初めて議連として訪問したベトナムでは、思った以上の反応があり、将来定期就航便の誘致に大きな可能性を感じた。

また、どの訪問先でも小松空港、石川県の知名度の低さを指摘されたことから、正確な情報発信に今後さらに力を入れていく必要性を強く感じた。

定期就航便の誘致は実現して終わりではなく、送客の取り組みなど維持していく努力も重要なことをあらためて感じた。いずれにしても、実りのある行政調査となった。

石川県議会ベトナム・タイ・香港　行政調査報告書

石川県議会議員　小松　実

令和７年 11 月 10 日(月)から 15 日(土)の６日間、小松空港国際化推進石川県議会議員連盟訪問団の一員としてベトナム・タイ・香港を行政調査訪問し、調査で見えた課題に関して報告する。

これまで、コロナ禍を除いて毎年訪問団が派遣されてきましたが、ベトナムの訪問は今回、初めてとのことである。

＜ベトナム＞　11 月 11 日（火）～１２日(水)

ベトナムでは、ベトナム航空と LCC のベトジェットエアを訪問した。石川県訪問団からは、小松空港は日本海側の拠点空港であり、石川県はものづくり、歴史・伝統・文化、食など魅力あふれる地域であること、インバウンドを含め国内外から多くの観光客が訪れ、北陸からも１００社ほどの企業がベトナムに進出していること、更にはベトナムからは技能実習生も多く来ていることなどを伝え、日本の主要空港への就航の他に、小松空港を新たな就航先に検討するよう依頼した。

ベトナム航空からは、日本への就航は近年、急速に増加しており、市場は一番高いので将来に向けて増便をしていきたいとのことであり、小松へはチャーター便に向けて調査検討し、ツアー商品を企画できるようにしたいとの回答を得た。

LCC のベトジェットエアでは、国際線を拡大する上で日本の増便を考えてあり、今回の訪問を受け、石川県の魅力と情報をよく共有して検討し、まずは調査団を派遣できるようにしたいとの回答であった。また、カーゴ便も就航しており、小松空港との連携もできないかとの提案もあった。

ベトナムでは 2 社とも意欲的な受け答えであった。

＜タイ＞　１１月１３日(木)

タイでは、LCC のタイライオンエア、タイ国政府観光庁、タイ国際空港を訪問した。北陸からは、１０３社の企業が進出しており、建機のコマツは小松市、8 番ラーメンは加賀市が発祥の企業であることやタイとの交流は石川県タイ友好協会を通じて盛んであり、インフルエンサーの相互 PR もこれまで実施している。訪問団からは、これまでのタイとの関係を報告し、台湾の高雄経由での就航などを提案し、日本海側の小松空港への定期便就航が悲願であることも伝えた。

LCC のタイラインオンエアでは、日本への需要があり１２月から高雄経由千歳、台北経由大阪の便などを新たに就航する予定で、今後も就航便を増やしたいとのことであり、石川県の魅力や小松空港への就航について調査したいとのことだった。

タイ国政府観光庁では、タイへ来る日本人が高齢化しており、北陸の学生

の研修旅行などでタイに来てもらいたい、また、スポーツ交流も良いのではないかとの提案があった。
　タイ国際空港では、機材の納入が遅れており、完了したら小松空港への就航を検討したい、小松への就航は検討上位に入っているとの報告があった。
　これまでのタイへの訪問でタイとの定期便就航の可能性が高い時期もあったが、コロナ禍や機材不足などで、なかなか実現しないのが現状である。

＜香港＞　１１月１４日(金)
　香港では、LCC の香港エクスプレスと EGL ツアーズを訪問しました。今年４月から定期便が復活したが、日本での大地震の予言などで搭乗率が悪化し、来年１月８日から３月２８日までが休止となった。訪問団からはアウトバウンドで LCC が安価であることなど県民に周知を図ることと合わせて、定期便の再開を要望した。
　香港エクスプレスでは、小松便の休止は大変残念である一方、再開に向けて就航時間や曜日の変更を要請され、搭乗率の向上も求められました。４月からの再開に向け計画するが、改善について石川県に検討を求め、数字の結果を残していきたいと述べられました。
　EGL ツアーズでは、これまで香港からの誘客に尽力され、県観光親善大使に委嘱されていた袁　前社長が逝去されたことに対し、これまでの功績及び感謝と敬意が訪問団からありました。日本のツアーは大地震の予言で観光客も減り運休になった路線もあるが、１０月から１２月は１００%回復しています。データ分析によれば石川・金沢は地方では一番人気で東京・大阪・福岡に次いで日本の人気都市の４番目になっており、４月からの定期便再開に期待し、ツアー企画を計画しているとのことであった。
　昨今の中国との関係により今後の香港便再開の影響が懸念されるが、課題である就航時間や曜日など４月まで改善に向け県として準備していく必要がある。

＜おわりに＞
　今回の行政調査では、初のベトナム、そしてタイ・香港となり、政府関係機関や航空会社、現地旅行代理店を訪問し、小松空港国際化の定期便就航に対する現状の課題を知ることができ、今後の議会活動に大きな成果があった。
　双方の地域に共通している点は、定期便が就航すれば、安定的にインバウンドの確保が期待できる。今回のような定期的な関係機関への訪問を継続することは友好関係を維持すると共に、ベトナムなど新規路線開拓にも繋がる大事な活動と考えられる。既にスタートしているインフルエンサーの招へいと両国の認知度を上げていく催し等を積極的に誘致することが急務である。
　そのためには、まず、インバウンドを待つより、今後、アウトバウンドをいかに増やすか、改善策を検討し、県民からの熱意を伝えていくことが必要である。

石川県議会香港・タイ・ベトナム行政調査報告書

石川県議会議員　田中美絵子

令和7年11月10日（月）から11月15日（土）までの6日間の行政調査を報告する。

今回ベトナムは初めての訪問であったが、親日国ということもあり友好的で前向きな雰囲気であった。タイは皇太后陛下がご逝去され国内が喪に服していた。訪問団もこの日は喪服着用にて訪問活動を行った。定期便の機運は各社薄いと感じた。香港は増便に関して前向きな対応であったが、翌日の総理の発言により日中関係が一気に冷え込み今後の見通しが読めない状況になった。

〈ベトナム航空〉

今回初めての訪問である。ベトナムでは日本への旅行がブームとなっており、成長のスピードは1番高い。またベトナム航空においては、今後日本のネットワークの拡大を検討しているため、混雑している主要航空を避け、地方空港との連携を模索しているところである。

石川県には観光的な魅力があるため、今後はニーズ調査や連携協力、調査団の派遣などを通じてチャーター便について検討を行いたいとのことであり、非常に前向きな話し合いであった。

〈ベトジェットエア〉

ベトジェットエアはベトナムで1番最初の大きなLCCである。当初は2機しかなかったが、現在は100機を所有する。ベトナム航空市場のシェア50%を占めており、今後も国際線を拡大する予定であり、機会があれば日本への路線を増やし、地方空港は地方自治体から何らかの支援があればビジネスの展開を考えたいと前向きな姿勢であった。しかしベトナムから日本へ行くベトナム人は増えており、ビジネスチャンスはあるものの、日本のビザの条件が他の国と比べて厳しくこの点については、日本政府が解決をしてほしいとのことであった。

今後は、より詳しい情報を頂ければ、ベトジェットエアのチームが審査を行い、ポテンシャルがあると判断すれば調査団を派遣し、観光会社とも協力して実現出来るか検討する方向となる。ベトジェットエアからは、子会社の貨物便も含めて今回の訪問を機に今後研究していきたいとの話で、石川県に関心を持ったというお言葉をいただいた。非常に前向きな話が続いていたが、ベトジェットエア側からは、石川県に行ったことがあるという話やどんな街かなど全く話題に出ず、恐らく訪れたことがないのではないかと感じ知名度不足も実感した。こうしたことからも、やはり訪問活動は重要であると感じた。

〈タイライオンエア〉
　ライオンエアではコロナ禍では機材が 20 機以下であったが、現在は 30 機以上となり、昨年から台北経由で成田への定期便就航を実現した。タイから日本へ向かう需要が多かったため、今年は新規就航便が多くあった。来年については検討の余地があるとのことであった。ライオンエアの営業部長からは、石川県のポテンシャルについて質問を多く頂き、関心の高さが窺えたが、どのように話を進めていくのかなど具体的な内容まで話を詰めることが出来ていなかった印象である。先方の石川県に対する知識はほとんどないに等しく今後交流と理解を深めることが必要と感じた。

〈タイ政府観光庁〉
　直行便の実現に向けた後押しとアドバイスのお願いにお伺いした。クリダサリソムワン　東アジア地域副局長からは、タイに来る日本人の年齢があがっている、次の世代にどう来てもらうかが課題と指摘を受けた。そのために、教育旅行や修学旅行を石川県でも呼び掛けて欲しいと依頼があった。石川県からタイへ 103 社企業が来ていることから、産業ツーリズムの発展の必要性も伺った。
　また、スポーツ交流としてチームでタイに来てほしいという要望も受けた。
　旅客だけでなく貨物便と石川県の物産をタイでアピールすることの必要性についてもアドバイスを頂いた。また、タイベトジェットエア、タイエアアジアという航空会社が伸びてきているのでコンタクトが必要であればつないでくれるとのことであった。タイからの課題を踏まえて、石川県側の取組に活かされることを期待したい。

〈タイ国際航空〉
　タイ国際航空へは 10 年以上訪問しているが、いまだ定期便は実現していない。タイ国際航空としては、日本へのルートを増やしていきたいという気持ちはあるそうだが、機材の納入が遅延し、機材不足のためまずはキャンセルとなった便を復活させることから始めたいため、今の状況ではチャーター便の就航は約束できないとのこと。しかし、新たな就航先として小松空港は上位にあがっている。今後は、定期便が実現するまで、お互いインフルエンサーを派遣し、石川県との関係を強化していく方向である。昨年から機材不足が続いている状況であり、今後も状況が改善されるのかどうかは不透明なように感じた。

〈香港エクスプレス航空〉
　コロナ以降休止していた定期便が今年 4 月から再開されたところであったが、日本で大地震が起こるという予言が出回ったため、冬ダイヤが休止となった。また香港では日本は熊が出没する危険な場所であると認識されており、こちらの問題でも搭乗率が悪化しているとのことであった。
　現在の直行便は週 3 便であり、出発と到着時間のダイヤの問題で日本側か

らの集客が少ないという課題があった。週4便への増便、出発時間をそれぞれ早めることが集客の鍵を握る部分ではあるが、共用航空のため防衛省との協議が必要となる。加えて、航空会社が赤字のため石川県からの金銭的な支援を求める声もあった。

私も今回初めて LCC を利用したが、ここまで安いとは驚きであった。LCC の安さを知らない日本人にこの点も PR し、日本からの集客に努めていかなければいずれ運航もカットされてしまうという危機感を持った。

〈EGL ツアーズ〉

石川県の観光親善大使を務め日本と香港の架け橋となってきた袁社長が今年ご逝去され、今後の交流や関係性にどのような影響があるのか気になる点であったが、ご息女であるクリスティーナ社長が袁さんの意思を引き継ぎ、石川県と香港の関係性の発展に向けて変わらぬ関係を続けていただけることが確認された。

クリスティーナ社長の話では、金沢市は日本の地方都市の中で1番人気のスポットとなり、EGL 社が取得していた小松直行便の座席も満席であるとのことであった。今後は立山黒部アルペンルートをはじめとした北陸のトレッキングツアーを組むことが有意義ではないかというご提案も頂いた。

ただし、こちらでも日本における熊の問題を指摘された。日本全体が熊で危ない場所という印象があると感じ、石川県は熊による被害はないと説明を行った。